

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	印西市木下地区歴史講座事業	
事業の実施者	実施団体名	木下まち育て塾
	所管部署	生涯学習課

2. 事業のプロセス評価

	設問	木下まち育て塾				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。		○				○		
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。	* 弱小市民団体故、講師を依頼する関係8市区(印西、白井、鎌ヶ谷、船橋、市川の5市、江戸川区、江東区、中央区の3区)学芸員等の確保 * 木下街道巡見に際してこれまで縁の無かった沿道地域の市民団体への連携の確認 * 講義の市民還元策としてのケーブルテレビ放映案に伴うケーブルテレビ会社との確認							
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。		○				○		
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。		○				○		
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。		○				○		
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。		○				○		
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。		○				○		
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。	* 講師を依頼する関係8市区学芸員との調整に伴う市による支援 * 木下街道巡見に際して市民団体との連携についての市による支援 * 講義の市民還元策としてのケーブルテレビ放映案に伴うケーブルテレビ会社との調整に伴う市による支援 * 夏期特別市民講座会場の市による事前確保							

	設問	木下まち育て塾				印西市			
			十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。		○				○		
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。		○				○		
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	* 市との「協働事業」という信頼性、担当部門の職員の方の支援により、関係8市区、夏期特別市民講座の講師を円滑に確保できた。 * ケーブルテレビによる全講義の収録、放映についても市との「協働事業」という信頼性により、更には地域活動支援を標榜する当該会社の理解により実施できた。 * 車の交通量が多く、かつ歩道も一部未整備の木下街道巡見に際して、事故回避を特段に意識して行動した。				* 講義と巡見の2本立てにより参加者の興味を引く事業になった。ただし、屋外での活動においては、余裕をもった、時間設定、十分な安全対策を講じる必要があり、改善を要すると思われる。			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。		○				○		
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	* 講座修了後アンケートによる参加者の感想意見を集約。 * 講座参加者に対し、塾活動の広報、事業参加への呼びかけを行った。 * 新聞、ケーブルTV、HP、フェイスブック等で事業内容について発信。 * 特にケーブルTVにより各回2時間に及ぶ全講義を講師のご理解のもと収録、放映した。この結果、さらに収録した講義のDVD、講義録をこれも講師のご理解により市内図書館2館に設置し、市民が何時でも視聴できるようにした。(設置時期は第一4半期で調整中。これについても当塾のHP、市の広報、ケーブルTVで周知する)				* 講義の様子をケーブルテレビで放送することにより、事業を市民に広く周知した。			
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	* 企画全体の方向性の確認や市民ニーズの把握等について市職員の意見を参考。 * 市広報手配、会場手配などは市に依頼。 * 集客、講座運営は塾で担当。				* まち育て塾が主体的な運営を行い、市は公共施設の手配や広報、HPでの周知など可能な限りの支援を行った。			

Q15 資金負担は適切でしたか。	①. 適切 2. 適切でない	①. 適切 2. 適切でない
適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	* 主に市外の博物館学芸員、市民団体、木下街道巡見に伴う交通費、人件費そして広報等告知費用が主な経費であったが、予算に合わせて運営できた。	・概ね適切であった。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

設問	木下まち育て塾				印西市			
	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○				○		
実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	*トラブルもなく計画通りに実施できた。				・行徳航路乗船体験において、旅行業法の確認に時間を要したため、参加者が限定された。			
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○				○		
達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	* 郷土の歴史に親しんでもらえるよう企画したが、回を重ねるごとに市民の関心が高まってきたと実感できるアンケートの内容であった。 * 夏期講座で親子対象に企画したが、集客が未達成で開催日程や広報手段で反省点があった。				・木下地区を中心とした印西市の歴史について、参加者の理解が深まったと思われる。			
Q18 経費の支出は適切でしたか。		○				○		
適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。	* 計画通りの支出であった。				・概ね適切であった。			
協働で事業を実施したことは、単独Q19で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。		○				○		
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	* 講座企画をする上で市との協働事業により多様な案を作ることができた。 * 市民への呼びかけに対し市民の参加がよりし易い効果があった。 * 市の持つ様々な施設・機能を利用することがしやすくなった。(広報ポスターの掲示等)				・市の財産ではない吉岡まちかど博物館を中心として、地域の歴史に焦点を当てながら、木下地区そのものの活性化を行っていく事業は、市単独では実施できないため、非常に効果的であると考えられる。			

協働事業実施後

<p>事業の実施により、事業計画で示したQ20地域課題の改善につながったと思いますか。</p>	<p>1. 思う 2. 思わない</p>	<p>1. 思う 2. 思わない</p>
<p>改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。</p>	<p>* 郷土の歴史に親しんでもらえるよう企画し、既存市街地の住民やニュータウンに移り住んだ新住民に対し、故郷意識を醸成できる活動として実施。地域のメディアの関心も高く学校の校外学習でも取り上げられる機会も増えている。</p>	<p>・会場の都合上、参加人数が限られていたが、講義内容をケーブルテレビで放送する等の工夫をして課題の解決を図った。</p>
<p>設問</p>	<p>木下まち育て塾</p>	<p>印西市</p>
<p>今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。</p>	<p>・住んでいるまちの歴史を学ぶことにより親しみと誇りを感じ、住みよさを改めて実感できるふるさと意識の醸成の一助になればという思いで、学ぶ場の提供の意義を確認することが出来ました。また、利根川や手賀沼、印旛沼という水辺の町としての豊かな印西市が市民が誇れる町としてより住みよいまちづくりのために、さらに継続的に事業を推進し、町の活性化にも役立てればと改めて意を強くした次第です。</p>	<p>・これまでの活動により、木下河岸から始まる木下地区の歴史について、市内外の人々に一定の理解を得られるようになってきていると考えられる。また、新たな取り組みとして行った木下街道を徒歩で踏破する事業において、市の歴史を広域的に学ぶ機会を提供できた。 ・今後も人々の関心が継続するよう、様々な手法で定着を図っていく必要がある。</p>

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、まちづくりファンドで修復した蔵をまちかど博物館として活用している提案者が、市民のふるさと意識醸成を目的に木下地区の歴史講座を実施する協働事業として採択されました。平成29年度は、平成24年度から連続して6年目の事業実施となりました。

平成29年度は新たな試みとして、他市の学芸員を講師に迎え、木下街道をテーマとする定期講座を8回行ったほか、特別講座として8月には一般市民を対象とした歴史講座、11月には行徳航路の乗船体験クルーズを実施、冬期には木下街道を4回で踏破する体験講座を実施しました。

講座の企画運営は提案者が主体となって実施していますが、事業には必ず市職員が参加・協力しました。情報発信等については提案者と市が連携して行っており、今年度は講座の様子をケーブルテレビで放映するなど、工夫も見られました。屋外の活動については改善の必要性が指摘されていますが、全般的には明確な役割分担に基づいて事業が展開されました。しかしながら、事業の企画・実施に大変な労力が費やされたにもかかわらず、特別講座以外はほとんど同じ参加者だった点は、事業効果の観点からやはり惜しまれるところです。

平成30年度は企画提案型協働事業(市民提案型)としての最終年となります。市民のふるさと意識醸成という所期の目的に立ち返り、これまでの事業の成果や今後の展望についての客観的な検証が期待されます。